

2023年室内環境学会学術大会 学生懇談会実施報告

大森果菜¹⁾, 西村有里¹⁾, 酒井颯大¹⁾, 浅岡 凌²⁾, 中島 舞³⁾

¹⁾ 静岡県立大学 〒422-8526 静岡県静岡市駿河区谷田52-1

²⁾ 東京工業大学 〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 W8-11

³⁾ 愛媛大学 〒790-8566 愛媛県松山市樽味3-5-7

Report on the 15th practice of student meeting held in annual meeting on Society of Indoor Environment, Japan 2023

Kana OMORI¹⁾, Yuri NISHIMURA¹⁾, Sota SAKAI¹⁾, Ryo ASAOKA²⁾, Mai NAKAJIMA³⁾

¹⁾ University of Shizuoka, 52-1 Yada, Suruga-ku, Shizuoka-shi, Shizuoka 422-8526, Japan

²⁾ Tokyo Institute of Technology, W8-11, 2-12-1 Ookayama, Meguro-ku, Tokyo 152-8552, Japan

³⁾ Ehime University, 3-5-7 Tarumi, Matsuyama-shi, Ehime 790-8566, Japan

Key words: 学生懇談会 (Student Meeting), 交流 (Interaction), ディスカッション (Discussion)

1. はじめに

本学会における学生懇談会は今年で15回目を迎えました。学生懇談会は、本学会の学生活動をより盛んにすることを目的とし、学会に参加する学生同士の親睦や情報交換の場となっています。学生懇談会は2009年に初めて開催されて以降、毎年開催され、大学や専攻、学年の垣根をこえた交流が行われています。今回の第15回の学生懇談会では26名が参加し、対面で実施されました。本稿では、学生世話人が参加者を代表して、当日の進行と記録についてご報告致します。

2. 実施概要

日時：2023年11月30日（木）13：00～14：00

場所：沖縄県市町村自治会館 C会場 4F 第2・3会議室

テーマ：新進気鋭な若手の集い～室内環境の未来へ向けて～

学生世話人：

大森果菜（学生会員，静岡県立大学）

西村有里（学生会員，静岡県立大学）

酒井颯大（学生会員，静岡県立大学）

浅岡凌（学生会員，東京工業大学）

中島舞（学生会員，愛媛大学）

プログラム：

- 1) 開催趣旨の説明
- 2) 自己紹介
- 3) グループディスカッション
- 4) まとめ

参加者：静岡県立大学（8名）、東京工業大学（1名）、愛媛大学（2名）、龍谷大学（2名）、秋田県立大学（1名）、東海大学（4名）、横浜国立大学（8名）に所属する計26名の学生

3. 実施内容

3.1 開催趣旨の説明

世界的に流行した新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活や研究環境に多大な影響を及ぼし、先行きの見えない中で不安を抱えながら過ごす日々が続きました。しかし、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、活動の制限が緩和されたことで、新たな挑戦がしやすくなりました。旅行、イベント参加など、以前の生活を取り戻す一方で、テレワークやオンライン学習など新しい生活スタイルも広がりました。これらの変化は、私たちが新たな可能性を見つけ、自己実現を追求する機会となります。

本学会では「室内環境」について研究を行っている学生が集まるものの、換気設備から室内の快適性、

機器分析の評価など、詳細な研究分野は多岐にわたるため、学生同士でざっくばらんに会話ができるようなテーマを選ぶことにしました。そこで、今年の学生懇親会では、「未来」に着目し、自身や研究の将来、室内環境のこれからについて同世代の学生間で意見交換を行い、「ポストコロナ」時代に向けて私生活や研究生活を見つめ直す機会になることを目的としました。

3.2 自己紹介

学生懇談会は参加者の自己紹介から始まりました。所属大学と学年、氏名、研究内容、趣味について全体で発表しました。多くの学会がオンラインで開催されていたこともあり、このような対面での懇親会に初めて参加した学生もいましたが、自己紹介の時間が過ぎていくにつれて、各自の緊張もほぐれ、和やかな雰囲気になっていきました。また、直前まで行われていたポスター発表や口頭発表について話す参加者も多く見られ、様々な研究分野について興味をもつきっかけとなったように思います。

趣味については、スポーツやダイビング、テーマパークや音楽イベントの参加など、「ポストコロナ」時代に活動の幅が広がったことが実感できました。また、学生ならではの学生生活事情についても楽しく情報共有ができました。

3.3 グループディスカッション

今回の学生懇談会では、様々な大学に所属する学生が交流できるように、2つのグループに分かれてディスカッションを行いました。

まず学会の開催地である沖縄の気候や観光地についてのアイスブレイクから始めました。12月にもかかわらず、暖かく過ごしやすい気候であることや、魅力的な観光地である首里城や美ら海水族館などに

ついて和気あいあいと話し合いました。このアイスブレイクは、沖縄に対する共通の興味や感じ方の違いを知り、お互いを理解することで、より良いコミュニケーションを図るための起点となりました。

続いて、今回のテーマである「室内環境の未来へ向けて」について意見を出し合いました。研究生活においては、オンライン上での作業や会議に慣れ、自宅からリモートで解析を行ったりできるようになったおかげで、通学時間が短縮し、新たに活用できる時間が増えたと感じている学生が数多くいました。そのようなスキマ時間を資格の勉強や自分磨きのために使うなど、室内環境の未来を担う学生として有効活用していることが分かりました。また、同じ室内環境分野で研究している学生から直接聞く進路や就活の経験談は、進路を模索している学生にとっては参考になり、大変貴重な機会となりました。

大学、研究室、課程が異なる学生間で“自分自身”、“研究”、“室内環境”の未来について話し合い、刺激しあうことで、今後の私生活や研究生活について視野を広げることができました。

4. まとめ

今回の学会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための規制が緩和されたことで、対面での開催となりましたが、多くの学生の皆様にご参加いただくことで、同世代の学生が気軽に会話できる貴重な機会となりました。特に、研究面については、同じ室内環境分野で研究をしている同年代の学生で、研究について語り合うことで非常に良い刺激になりました。コロナ禍の自粛により、他大学の学生と交流できなかった学生にとって、大変有意義な時間を過ごすことができたのではないかと感じています。今後もこの活動が引き継がれ、参加者の皆様にとって価値のある会になることを期待しています。



写真1 自己紹介の様子



写真2 グループディスカッションの様子



写真3 学生懇談会 集合写真